

中学校 特別活動における「自己実現」の視点に立った 生活記録の工夫

ーキャリア形成に向けた学びの意味づけを目指してー

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 中島範隆

1. 課題

学校教育における学びと生徒の在り方や生き方との結び付きに意識を向けることが、教師に強く求められようになっている。2016年12月に出示された中央教育審議会答申では「自己のキャリア形成の方向性と関連付け」ることを「主体的な学び」の中に位置づけた。さらに、中学校学習指導要領（平成29年告示）（以降、「学習指導要領」）の総則に「キャリア教育」の語が初めて明示され、キャリア教育は特別活動を要しつつ学校教育全体で行うものと位置づけられた。そして、新たに特別活動における学級活動の内容の(3)に「一人一人のキャリア形成と自己実現」が設定された。このように学校教育課程全体が生徒のキャリア形成と深く結びつけられていることから、学校教育の成果が個々の生徒の学業的な達成だけでなく、将来に向けたキャリア発達の面からも求められていることがわかる。

では、実際にどのように生徒のキャリア形成を進めていけばよいのだろうか。「学習指導要領」では、学級活動の内容(3)の指導に関して、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」としている。そこで導入されたのが「キャリア・パスポート」である。「キャリア・パスポート」について、2019年3月に文部科学省初等中等教育局児童生徒課が出した『「キャリア・パスポート」例示資料等について』の事務連絡では、その内容を基礎資料を基に振り

返りと見通しができるものとする」と示している。また、振り返りおよび見通しの対象は、「学校生活全体及び家庭、地域における学び」とされている。中村(2021)も、「キャリア・パスポート」を効果的に活用していく上で配慮しなければならない事項として、基礎資料の充実を挙げており、そのような基礎資料を基にまとめた「キャリア・パスポート」が将来に向けた内省を可能とすると述べている。

本研究では、基礎資料の充実に向けて、多くの中学校で使用している生活記録ノートに着目した。児童・生徒は個別の教科やキャリア教育といった枠組みの中だけでキャリア形成を行っているわけではない。授業も学校も家庭生活もシームレスに様々なことを考え、学び、経験しながらキャリア形成を行っていると推測される。毎日、記録を書くことを基本とする生活記録ノートであれば、普段の微細な気付きや変容を記録に留めることができ、教師も生徒もより細かなキャリア形成の実態を把握できると考えた。加えて、生徒の記録を通して具体的にキャリア形成の姿を明らかにすることは、村井(2012)の指摘した「キャリア発達の過程において児童がどのような姿を見せるのか、そのイメージを教師は抱きにくい実態がうかがえた」というキャリア教育における課題に対して幾分か寄与できると考えた。

なお、本研究では、キャリア形成を「生徒が自らの学びや体験を、自分の過去・現在・未来につなげて意味づけること」と定義する。また、キャリア発達を「キャリア形成を重ねることによって、発達課題を達成しながら、自分らしい生き方を実現していく過程」と定義する。「自己

実現」は特別活動において提示された3つの視点のうちの1つであるが、本研究では、「現在及び将来の自己の課題を発見・改善しながら、自分が目指す目的や理想を思い描き、自分らしい生き方やあり方を実現していくこと」と定義する。以上の定義は「学習指導要領」解説特別活動編を参考にしながら筆者が作成した。

2. 目的

本研究では、生活記録ノートを基に、生徒のキャリア形成を目指したワークシートの開発及び実践を行う。そして、生徒のキャリア形成の姿を具体的に明らかにしつつ、開発したワークシートおよびその実践の効果を検討することを目的とする。

3. 方法

- (1) 対象校 山梨県公立中学校
- (2) 期間 令和4年5月～12月
- (3) 生徒 中学3年生 3学級 (86名)
- (4) 実施方法
 - ①中学生のキャリア意識に関する実態把握のための調査（質問紙調査・聞き取り調査）
 - ・調査方法：質問紙調査・聞き取り調査
 - ・調査対象：県内公立中学校3学年生徒(76名)
 - ・調査日：令和4年7月14日4校時(25分間)
 ※聞き取り調査は、3の(2)の期間中に休み時間等を用いて、インフォーマルな半構造化インタビューを生徒29名に対して実施した。
 - ②生活記録ノートを基にしたワークシートの開発
 - ③「キャリア」の理解を深める道徳授業の実践
 - ・実施日：令和4年11月10日
 - ・生徒：中学3年生3学級に各学級1時間ずつ実施
 - ④開発したワークシート（以降、「キャリアの種WS」と呼ぶ）を活用した実践
 - ・実施期間：令和4年11月21日～12月4日
 - ・生徒：中学3年生3学級(86名)
 - 学級ごとに実施
 ※中間振り返りは11月28日、最終振り返りは12月8日に行い、10分間で実施した。

4. 結果と考察

①中学生のキャリア意識に関する調査（質問紙調査・聞き取り調査）

生徒のキャリア意識の実態把握と「キャリアの種WS」の開発や実践に生かすための基礎調査として質問紙を作成した。

- ・調査項目の概要は、表1に示した。

表1 調査項目の概要

設問1 将来の夢や目標などについて3項目 質問数は、将来の夢や目標が「ある」と答えた生徒は8問、「ない」と答えた生徒は7問
設問2 学校生活への意欲など「自己実現」に向かう態度など（質問数6）
設問3 生活記録に関する意識について（質問数5）

回答者数は76名であった。以下では、紙幅の都合上、後の分析に関わる部分のみ分析結果を取り上げる。

a. 質問紙調査の結果

「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問では、「はい」と回答した生徒が63.2%であった。全国学力学習状況調査では4件法で同様の質問項目があり、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」に回答した生徒の割合は合わせて67.4%である（令和4年度）。全国の数値に比べて、やや低い数値となっている。設問2の質問の一部の結果を表2にまとめた。表2の数値は、4件法の回答の内、肯定的な回答を合わせたものである。

表2 質問紙調査中の設問2の結果（一部）

学校での活動（授業以外も含む）に、意欲的に取り組んでいますか。	91%
学校での活動（係当番、委員会、部活動などの様々な活動）で、積極的に役割を果たしていますか。	95%
将来の夢や目標の実現のために、学校の授業を生かしていますか。	74%
学校外の生活や活動を、将来の夢や目標の実現に生かしていますか。	72%

学校生活への意欲や自分の役割への意識については、9割以上の生徒が肯定的な回答をし

ている。また、比較対象がないのであくまで推測の域を出ないが、7割以上の生徒が学校の授業や学校外の生活や活動を自分の将来に生かしていると肯定的に答えており、キャリア形成に向けての意識は比較的高いと予想される。

一方、「将来の夢や目標を持っていますか。」という質問に対して、「いいえ」と回答した生徒が36.8%であった。その内の53.8%の生徒が「自分が将来、『自立した大人』になるために、どんなモノや資質・能力が必要となるか、考えたことはありますか。」という質問に対して「考えたことはない」と回答している。

また、設問3では、生活記録についての意識を調査した。43.1%の生徒が生活記録ノートを書くことに対して「どちらかといえばきれい」か「きれい」と回答している。書く内容に関しては、「1.その日の出来事やあったこと（出来事・事実）」、「2.自分が学んだことや新たに知ったこと（成果・成長）」、「3.あなたが感じたことや気持ち（感想・感情）」、「4.自分の良くなかったところや反省点（反省・失敗）」、「5.1～4以外の内容」の各項目に対して、自分が書いてきた記録を合計が10割になるように割合を記入してもらった。結果は、全体の平均値ではおよそ5割が「1.（出来事・事実）」の記録であり、次に2割ほどが「3.（感想・感情）」であった。

b.聞き取り調査の結果

学校の授業を自分の将来に「生かしている」と答えた生徒7名に聞き取り調査を行った。1名の生徒を除き、言い淀んだり、特に思い浮かばなかったり、そもそも自分が「生かしている」と答えた記憶がないと答えた生徒もいた。その姿から推測されることは、学校の授業自体が漠然と将来に生かされている印象は抱いているが、具体的にどのように生かしているのかというのを言語化するところまでは至っていないということであろう。

②生活記録ノートを基にした「キャリアの種WS」の開発

①の調査結果より、生徒が自らの将来に必要な

となる資質・能力を同定することの難しさがあることがわかった。そのため、事前に自分が伸ばしたい資質・能力を設定してキャリア形成を図る形のワークシートではなく、学校内外の生活から自分の将来につながると思う学びを発見し、記録する形式とした。そして、生活記録をキャリア形成に繋げるための工夫として、「意味づけ」に着目した。吉川(2020)は、キャリア発達を「時間的ならびに空間的な意味における様々なつながりが拡充していく過程」としており、サビカス(2015)は「主観的キャリアは、いまここを生きているという意識だけでは構成できない。それは自己への気づき、特に過去から現在、そして未来への連続を作り上げる自意識的内省を必要とする」と述べている。小西(2019)も、サビカスなどのキャリア発達理論を参照しながら、「主体的なキャリアでは、過去の出来事や経験の意味づけと将来への見通しとを結ぶ行為（もしくは思考）が重要である」と推察している。

以上のことから、生徒が生活記録ノートに記録している体験や気づきや学びを意味づけることをキャリア形成ととらえ、それを旨としたワークシートの作成を考えた。①の調査より、生徒が普段の生活記録ノートで「出来事・事実」の記録を主としており、教師の指導や支援なしに意味づけを行うことは難しいと考え、意味づける方法がわかるように「書き方のアドバイス」をワークシート内に提示した（図1）。

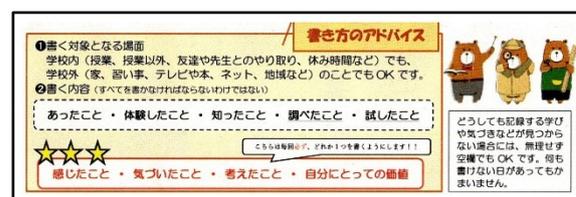


図1 「書き方のアドバイス」

また、生徒が様々な場面や視点から、自分の将来に繋がる学び（以降、「キャリアの種」）を見つけられるように、「記録場面」と「記録内容」をチェックする欄を設けた。この欄は、中間の振り返り時に、生徒が自分の記録の傾向を把握

できるようにすることも想定した。

以上のように、生徒が普段使っている生活記録の様式を基にしつつ、いくつかの変更を加えてできたものが、図2の「将来につながる『キャリアの種』を見つけよう!」である。生徒の日々の記録を、サビカス(2015)がキャリア・テーマを構成する基になると考えた「マイクロラティブ」として捉えた。それを植物の種になぞらえて、「キャリアの種」と名付けた。単なる出来事や体験などが意味づけられ、他のキャリアの種と統合されることでキャリア発達につながっていく様子を植物の成長に置き換えることで、生徒がキャリアの語義や今後の活動のイメージを持ちやすくすることを意図した。



図2 将来につながる「キャリアの種」を見つけよう!

1週間記録したところで、それまでの記録を振り返り、2週目の記録の質を高めることを意図した中間振り返りのシートと、すべての記録が終わったところで成果を評価する最終振り返りのシートも作成した。

③「キャリア」の理解を深める道徳授業の実践

①の調査より、「キャリアの種WS」を使った実践を行うにあたり、以下のことが懸念された。

- 「キャリア」という言葉が生徒にとって馴染みがなく、イメージしにくいこと。
- 現在と将来を結び付けてイメージすることが難しく、将来の夢や目標がまだない生徒には困難さが大きくなること。

そこで、それらの懸念を解消するために、道徳の授業案を考え、実践した。

主題名：自分らしく生きる-中学生とキャリア-
内容項目：C-13 勤労 / A-3 個性の伸長
資料名：「一日中、人に向かい合うのはイヤ!」

(出典：ひらた・鶴田，2006)

ねらい：働くために必要な資質・能力を理解し、中学生の段階から将来の社会的・職業的自立に向けて、自分を成長させようとする道徳的実践意欲を育てる。

資料を通して、将来職業に就いた時に必要な資質・能力が専門的な技能だけでなく、中学生が学校生活で身に付けることができるような資質・能力も必要とされていることを生徒に気づかせるように授業を工夫した。そのことによって、将来に向けたキャリア形成はすでに始まっており、「キャリア」という言葉は大人だけでなく、中学生にも関係する言葉であることを実感してもらうことを意図した。

授業の最後に、「キャリアとは」という言葉に続けて自分の言葉で定義を書く学習活動を行った。授業者の意図した通りに「役割」として理解した記述が多かったが、「能力」や「経歴」として理解している生徒も少なからずおり、課題として残った。ただ、中学生にも「キャリア」は繋がりがあるということへの気づきについては、多くの生徒が授業感想に書いており、授業の意図は概ね達成されたと思われる。

④「キャリアの種WS」を活用した実践

「キャリアの種WS」では、土曜日と日曜日を合わせて1回分の記録とし、2週間で最大12回記録する形式とした。生徒の負担感を考慮し、書く内容が見つからない場合には、空欄でもよいこととした。生徒がどのくらい記録することができたのかを図3にまとめた。

次に、キャリアの種を見つけた場面を集計し、グラフに示したものが図4である。

また、記録場面を「学校内」と「学校外」に分け、さらに「授業」に着目して、グラフで示したものが図5である。

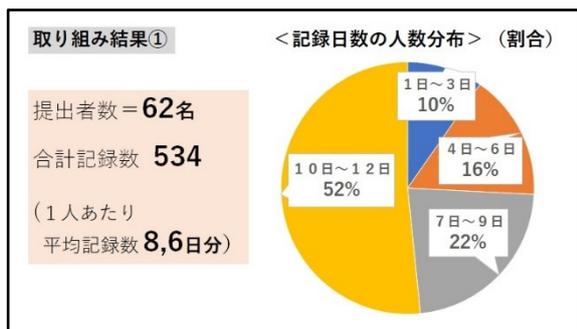


図3 「キャリアの種WS」取り組み結果①

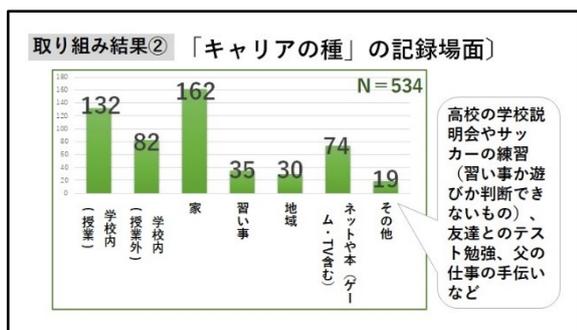


図4 「キャリアの種WS」取り組み結果②

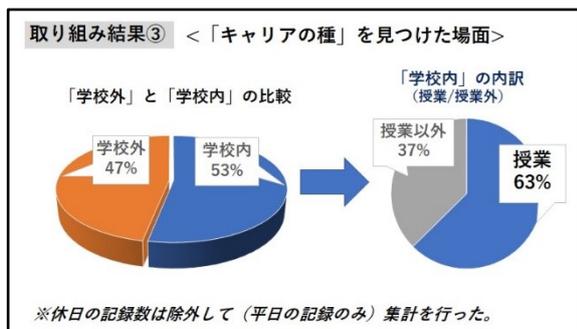


図5 「キャリアの種WS」取り組み結果③

次に、記録の内容から生徒のキャリア形成の姿を見ていく。意味づけがされていると判断した記録を対象にラベル付けをし、さらにカテゴリー化を行った。その結果、9つのカテゴリーが生成された(次ページの表3のとおり)。

これらのカテゴリーで示された項目は、生徒たちが将来必要になると考えたものや資質・能力およびキャリア形成に関する気づきの一覧である。今回の研究対象が中学3年生であることを考えると、義務教育を通じて生徒が必要性を認識したものや資質・能力を示した一例ともいえるかもしれない。ここでは詳細な検討は行

わないが、小・中・高等学校のキャリア教育で重視されている「基礎的・汎用的能力」がどの程度生徒に意識されているかを評価するためのアセスメントとしても活用できそうである。

さて、学びの対象や記録場面など様々な観点から分析することが可能だが、紙幅の都合上、本論稿では、「授業」における生徒のキャリア形成に絞って分析および考察結果を示す。

分析対象としたデータの内、授業を対象とした記録は全部で84あった。そのうち、授業で扱った内容自体を対象として学びを記録したものは15あった。自分の生活との繋がりが見えやすい、社会科の裁判員制度や保健体育の感染症、技術科のプログラミングの3つだけで7割近くを占めている。それ以外に、授業内容をキャリア形成に繋げた記録として、「今日、授業中に測量の話がでた。測量する仕事の人日本中どこでもいる気がする。もし測量士になったら仕事ついでに旅行もできていいなと思った。そういう生き方もありだなと感じた」という記録がある。

この時の授業では、測量で使うカメラについても触れたようで、別の生徒はカメラの絵をワークシートに描いていた。これらは、授業での学習内容を職業や仕事に直接関連付けることで生徒のキャリア形成に繋がった事例である。他方、同じように授業を対象として記録しているながらも、授業内容自体ではなく、そこから派生する非認知能力が将来に繋がるという形式陶冶のような意味づけを行っていた記録が18あった。体育の持久走を辛いことに耐える大切さや励ましてくれる仲間の大切さに結び付けた記録がその一例である。授業内容自体を対象とした記録がそれほど目立った数にならなかったことから、生徒は授業で扱う学習内容と自分の将来を結び付けにくいという可能性が示唆される。生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けて学習を進めるためには、教師が学習内容と実生活および職業などとの関連を意識的に明示するような手立てが必要だと考えられる。また、そのような手立ては、より多くの職業知識を生徒に与えることによって、より

表3 生徒が見つけた「キャリアの種」に関する領域の 카테고리グループ, テキストデータ例

大カテゴリー	主な小カテゴリー	テキストデータ	頻度
自分自身や自分の将来、職業に関すること	自己理解を深めること	今日は進路相談があった。合唱祭について先生が話してくれて、私は見えない所で人に何か与えていたものがあつたと知り、嬉しく思った。	144
	将来像を持つこと	委員会で、合唱祭の会場設営をしていた時のことで、先生が、保健室の先生に合唱中のマスクをどうにかできないかと相談している姿を見ました。私は、人の目にあまりふれない場でも人のために努力できる人間になりたいなと思いました。	
	職業に関する知識	とっても小さいおまつりに行ったら、プロのカメラマンに写真をとってもらおうやつがあつたので、家族でとってもらった。カメラマンは写真をとるだけが重要だと思ったけど、話したり、笑わせたりすることも大切だと思った。	
	職業観・勤労観の深まり	今日は、お父さんが駅の広場でお店を出しました。なので、少しお手伝いに行きました。お父さんは、ずっと立っていました。帰ってから、お父さんに「疲れないの?」と聞いたら、「自分の好きなことだから疲れない」だそうです。私も、そんな仕事をしたいと思いました。	
勉強や学習に関すること	やりたいことをやる手段としての勉強	今日も、たくさん勉強した。受験もあって、すごいつらいけど、将来、自分のしたいことをするには必要だと思って頑張る。	55
	文章をつくる力	前期のやつを書いた時、文章をつくる力もキャリアになるのかな…と感じた。比較的、文章をつくるのは得意だけどこのようなものを通してもっと文章をつくるを上げていけば、いつか役立つのではないかと感じた。	
	勉強方法を工夫する力	もうすぐテストだから家に帰ったらすぐにテスト勉強をした。家にはマンガやスマホなど誘惑物が多いから、自分の部屋から誘惑物を取り除いて集中して勉強してみた。はかどってよかった。	
生活習慣、健康および社会常識に関すること	基本的な生活習慣	昨日は遅く寝たため、今日1日体がだるく、パフォーマンスが落ちてしまいました。ここから睡眠は生活にとっても大切なものなのだと知った。	45
	心身の健康	どうやら自分は物にあたる癖があるようだ。けど、物にあたるのっているさし引きしてもやっぱりマイナスにしかならないから、改善すべきところだなと思う。でも、生きてばどうしてもストレスはたまるから、他の解消法を身につければもっと生きやすくなると思う。	
	社会常識	昨日からあいさつの取り組みが始まる。あいさつは常識だし、大切なことは社会に出て変わらないと思った。あいさつを大切にすることは将来につながる大事なことだと思った。 学園祭のアンケートのしめ切りを守ることなどの期限を大切にすることは社会に必要なことだと思った。	
他者との協働や関わり	協力・協働する力	今日はサッカーがあつた。サッカーは技術だけでなく、お互いに協力、団結することが大切だし、ひとりじゃないことを改めて感じた。団結すること、仲間と関わることは、将来にもつながると考えた。	36
	コミュニケーション力	今日は(最近)副教科の先生や他クラスの人と話したりして、いつもと違う人と話せて、楽しいと思いました。互いに楽しく話したいという思いが私にはあるため、この人にはこういう接し方がいいかもとか、相手を考えること自然として、それが楽しいんだと気づきました。将来につながりそう。	
	他者を理解しようとする	バスケの試合があつた。勝ってさげんで喜びたかったが、負けた相手の気持ちを考えて少し喜ぶのをこらえた。相手の気持ちも考えることはこれからの仕事関係や友達関係に必要なことだと思った。	
粘り強さ・意欲	粘り強さ	今日は持久走があつた。きつときに頑張ること、そのあと1歩が、自分を成長させてくれると思う。だから、何事もあと1歩、足を伸ばしていくことが将来につながるのではないかと考えた。 最近、テスト期間なので、たくさん学んでます。その学んでいる内容は将来にあまりつながらないかもしれないけど、1つのことに向かって頑張るっていうのは、将来への力になっていると思った。	30
	自信を持つこと	生活記録ノートの格言タイムってところに自信は成功の第一の秘訣とかいてあり、最近いろいろうまくいってなくておちこんでたけど自信をもつことってやっぱり大切だとわかった	
計画性・時間の使い方	上手に時間を使う力	今日は帰ったあとに、少しだらけてしまった。だらけるは休憩にもなるけれど時間をもっと効率的に、大切に使うことも将来につながっていくと感じた。	28
	先を見通した行動力	今日は数学の課題プリントの回収日であった。でも前日にいそいでやっちゃい大変だった。国語の先生が「1日前には終わらせておく」と言っていたのを思い出して、計画的に動くことの大切さを知ることができた。	
経験や体験を重ねること	経験を通して成長すること	私は、やりたいことがあっても考えすぎてチャレンジすることをあきらめたことがあつたけど、お父さんやお母さんが自分のやりたいことを実現しているのを見て、たくさん経験をすることも自分の成長には、大切なことだと思った。	7
	アルバイトから経験を得心すること	今日は勉強のあいまに少し出かけた。私は高校生になったらたくさんバイトをして経験を積んで将来に役立ちたいなと思っている	
家庭人・市民としての役割	家事の大変さの理解	お母さんがいなかったから、かわりにお父さんとシチューをつくれた。大変だったから、いつもご飯をつくっているお母さんはすごいと思った。	20
	裁判員制度への心構え	社会の授業で、裁判員制度を初めて知って、いつ自分の番が回ってきてても良いように、かまえようと思った。	
	地域付き合いを大切に思う気持ち	ウォーキング大会があつた。今回は行けなかったが地域の付き合いは大切だと思うので次からはしっかり参加しようと思った。	
進路に対する迷い・揺らぎ	やりたいことを追いかけることへの迷い	進路相談があつた。決まっていたはずなのにやりたいことができて、また迷ってしまった。でも、やりたいことを追いかけて選んでもいいのかなと思った。そんなに悩める時間はないけど、好きなことやるのはいいけど、高校はそれだけじゃないよな…とも思った。	10
	すべての人が好きな仕事につけない現実	自分の好きなことを仕事にできるのはとても羨ましかった。ある映画から、全ての人が好きな仕事につけないんだなあと思った。	

よい進路決定に繋がる可能性を高めるだろう。

授業におけるキャリア形成という点では、授業での調べ学習にも着目したい。授業での調べ学習に関する記録は6あったが、そのうち1つは自己のキャリア形成に関連付けた「今日の授業で環境問題について調べる授業がありました。僕は将来海に関係することでやってみたい

ことがあつたので海洋汚染について調べました」という記録であった。他にも、「レポートで環境問題について調べていて私は海にゴミを捨てている人やばい捨てをしている人は人間失格だと思った。自分はそんな人にはなりたくないと思った。」というように将来の人間像に繋げて意味づけた記録もあった。調べる内容を

生徒が選択できる裁量があると、自然と関心のある分野に寄せて調べるため、結果的に学習が生徒のキャリア形成の方向性に近づいていくのだろう。キャリア形成という点から授業を考えると、調べ学習や探求学習の持つ効果や意義についての認識を深めていく価値はあると思われる。

最後に、教師の余談のキャリア形成への影響にもふれておきたい。生徒が教師の授業中の余談に着目した記録数は7あり、分析対象外の記録も合わせると10あった。社会科の教師が歴史に対する思いを自己開示しながら語ったことについて、ある生徒は「本当に好きなんだなーって。それについて語る時の目や話し方が、私がアニメとかについて語る時と同じ(笑)先生の意外な一面が知れた。好きなことや仕事にするっていいなーと思った。私もそうなりたいなー。」と記録している。教師の語りが生徒の職業観の形成に寄与していることが読み取れる。意味づけの仕方は異なるが、この語りは他に2人の生徒が学びの対象として記録していた。また、他の教師の余談を学びとして挙げている記録が2つあるが、この教師は、参与観察にて授業を参観した際にも、自らの職業選択で悩んだ経験話すことによって、職業知識や職業選択のモデルを生徒に与えるなど巧みにキャリア教育の要素を授業に織り込んでいた。また、教師の語りではないが、授業中の教師の振る舞いについて「今日の1限目の時に、クラスの掲示物がはがれ落ちそうになっていたのを『破れたら嫌だよね、一旦はがしちゃおうか。大切なものでしょ?』と先生が言って、掲示物をはがしてくださいました。別に自分のクラスってわけではないのにこのような言動をとった先生を見て、私も誰かのために何かをして人の助けになりたいと思いました。」と記録し、将来のこうありたいという姿を思い描くモデルとなった事例もあった。記録を見る限り、教育課程に限らない生徒のキャリア形成のリソースとして、依然として教師の存在は重要な位置を占めていると考えられる。

◆最終の振り返りシートから見た、本実践の成果と課題

「最終振り返り」の結果 <選択回答アンケート> N=72			
①この取り組みは、あなたが将来につながるような学びを見つけることに役立ったと思いますか。		②この取り組みを通して、現在の生活や学びを自分の将来とつながって考えるようになったと思いますか。	
かなり思う	22.2%	かなり思う	27.8%
まあまあ思う	62.5%	まあまあ思う	58.3%
どちらともいえない	15.3%	どちらともいえない	9.7%
あまり思わない	0%	あまり思わない	4.2%
まったく思わない	0%	まったく思わない	0%
84.7%		86.1%	
③この取り組みは、あなたが将来の見通しを持つことに役立ったと思いますか。		④この取り組みを通して、学校内や学校外の生活や学習への意欲が高まったと思いますか。	
かなり思う	26.4%	かなり思う	18.1%
まあまあ思う	52.8%	まあまあ思う	41.7%
どちらともいえない	16.7%	どちらともいえない	25%
あまり思わない	4.2%	あまり思わない	15.3%
まったく思わない	0%	まったく思わない	0%
79.2%		59.7%	
4.2%		15.3%	

図6 最終振り返りにおけるアンケート結果

最終の振り返りシートのアンケート調査からは、①と②の質問に対しては8割以上の生徒から肯定的な評価がなされた。自由記述においても、現在と将来をつなげる意識が高まったことを示す感想として、「この取り組みをして、“キャリア”とか“将来のこと”っていうのが身近になった気がする。前までは将来のことはまだ先のことと思込んで、何も考えていなかったけれど、今、できる将来につながるようなこともあると知って“キャリア”を見つけていこうと思った。」や「どんなことがこれからつながるかな」と考えながら意識して過ごすようになった。また、自分が今どんなことをして将来に役立てようとしているのかを意識するようになった。」が挙げられる。③の将来の見通しについては、「こんな時期だから、高校だとか進路だとかにかたよりがちになっていた思考が、将来とか、職業とかの、さらに先を見通すことができるようになり、さらに先の未来に興味をもてるようになった。」という記録も見られ、生徒が将来の見通しを持つ助けにもなる可能性が示唆された。一方で、キャリア教育に期待されている生活や学習の意欲向上に関しては、数値を見る限り、その他の効果に比べて十分な効果が表れなかったようだ。しかし、自由記述では、活発に行動したり、挑戦したりするようになったという感想が見られた。

その他に自由記述の中から明らかになった成果としては、「学校の先生や塾の先生、お店

の店員など行く先で自分の将来と照らし合わせられた。」や「学校帰りなど働いている人を見て、こういう職業はおもしろそうだななどと考えた。」というように、周囲をよく観察するようになったことがある。実際に、「キャリアの種WS」には、職業について調べた結果をまとめる、友達が日直をしている姿から将来必要となる資質・能力を見いだすなど、周囲への関心を高める効果が見られた。

一方、生徒のキャリア形成を考える時に教師が念頭に置くべき点も見つかった。それは、将来のことを考えることは生徒に前向きな希望ばかりではなく、マイナスな不安や心配を生み出すということである。最終振り返りでの自由記述に以下のような記録が見られた。「なりたくてもなれないのかもしれないと思うと不安になって、やりたことも何かわからなくなる。」「将来自分になりたいものがなくて不安。昔はいっぱいあったはずなのに。いろいろと深く考えると余計分からなくなる。」

自分を他者と比較し、客観的に自分を眺められるようになると、自分の将来像の実現性に無邪気ではいられなくなることがある。すると、将来を考えることが、不安や心配を増す結果になることもあるようだ。ただ、生徒のキャリア発達を考えたときには、そういった真剣な将来の吟味は必要不可欠なものだと思われる。生徒が心配や不安を持ちながらも、それを適切に乗り越え、キャリア発達を遂げられるような配慮や支援が教師に求められるだろう。

5. 全体考察

本実践によって、生徒が現在と将来のつながりに関心を持ち、キャリア形成につながる学びを見出すことができることが明らかになった。今後の課題としては、「自分は先の自分のためにできそうなことを見つけても、見つけたで終わってしまうから、実行までいけるよう頑張りたい」という生徒の感想にもあるように、生徒が必要と認識した資質・能力を実際に身に付けることにどうつなげていくかである。本実践は、学級活動外で行った取り組みである。その成果

を学級活動の内容(3)「一人一人の自己実現とキャリア形成」での授業にどう繋げていくかというところにその解決の糸口があるかもしれない。生徒が記録し、蓄積したものをどのように生かしていくのかという視点と共に、「キャリアの種WS」自体を生徒が資質・能力を育むための場として生かすという可能性も考えられる。今後は、キャリア・パスポートへの有効な接続も視野に入れながら、生徒が進路選択にとどまらない、「自己実現」を目指していく教育実践について、さらに考えていきたい。

6. 参考文献

- ひらたつまびらか・鶴田麻也美(2006) キャリア教育と授業プログラム:自分らしさを発見する授業, 日本標準
- 小西琴絵(2019) 主体的キャリアと時間展望概念の関係性の検討, 東海学園大学研究紀要, 24, 1-14
- 文部科学省(2018) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示), 東山書房
- 文部科学省(2018) 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編, 東山書房
- 文部科学省初等中等教育事務局児童生徒課(2019) 「キャリア・パスポート」例示資料等について
- 村井康真(2012) 小学生を対象とした海外のキャリア教育の研究動向—スーパーのキャリア発達理論に依拠した実証的研究を中心に—, 筑波大学大学院人間総合研究科学校教育学研究, 5, 39-57
- 中村充宏(2021) 特別活動におけるキャリア・パスポートの活用に関する一考察, 広島工業大学紀要教育編, 21, 19-26
- M.L.Savickas(2011) *Career Counseling*, American Psychological Association. (日本キャリア開発研究センター監訳, 2015, 『サビカス キャリア・カウンセリング理論 (自己構成)によるライフデザインアプローチ』, 福村出版)
- 中央教育審議会(2016) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について
- https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afildfile/2017/01/10/1380902_0.pdf 【2023/1/27 最終閲覧】
- 吉川成司(2020) キャリア発達とキャリア・カウンセリング (長島明純編 はじめて学ぶ生徒指導とキャリア教育, ミネルヴァ書房), pp.208-228